

北般若だより

2026 年(令和 8 年)8 月 1 日

第 353 号

北般若自治振興会

北般若公民館

水害時情報収集・伝達訓練について

6月25日(木)に市内の各連合自治会単位に、大雨や堤防決壊等による水害が発生したと想定し、各地域内の被害状況等を収集して、市危機管理課へ報告する訓練を行った。

我々自治振興会では、単位自治会の全会長とLINEグループを組んでおり、日頃の情報連絡のスピードアップ・ペーパーレス・コストダウンを図っている。当訓練においても、結ネットにて市からの指示を受けて、各自治会長へラインで被害状況の確認と報告の指示を発信。各自治会長の報告を受け、北般若として情報をまとめ、市へメール・結ネットにて報告を上げた。然しながら、各自治会においては、自治会長と班長や防災担当とは電話による情報伝達が主で結構な時間を要した、と聞いた。各自治会内の役員間情報伝達手段の検討が望まれる。

北般若自治振興会会長 玉井邦昭

今年の夏は大人も子供も公民館へGO!!

今年の『北般若公民館夏 休み開放』は、子供達だけでなく地域の皆さんにも来ていただく夏の開放です。夏の暑さを吹き飛ばし、楽しく、わいわい、集いましょう。期間:令和8年8/3(月)～8/24(火)午前中 土日祝休み

①期間中、イベントを開催いたします。

子どもたちと大人の皆さんが対象です。

時間:午前9時半～11時半

開場:1階公民館ホールでのイベント

②学習室開放 学びのため2階の講義室を開放

中学生・高校生・大人の皆さんが対象です。

時間:午前9時半～午後3時半

開場:2階公民館講義室を使用

イベント:詳しくはチラシをご覧ください。 北般若公民館

北般若地区等の動き

8/ 4 花壇コンクール 8/16 慰霊祭

8/20なのはな元気教室

納涼祭: 吉住 8/ 1 大清水 8/ 8 石代 8/11
西部金屋 8/15 吉住新 8/23 徳市 10 月



第61回 戸出七夕まつり

今年も戸出の夏の風物詩「第61回戸出七夕まつり」(7/3～7/7)は、約600本の豪華な七夕飾りでまちなかを彩り、大勢の来場者を楽しませてくれました。



戸出七夕の歴史をたどると、江戸時代は習字の上達を祈るための七夕祭りが盛んに行われ、明治維新以後は、子どもの成長を願う行事となっていました。特に長男のために七夕を飾る風習はこの地方一帯に広まり、竹の下部設置の行燈に男の子の名前と武者絵が付いているのが特徴であると言えます。昭和38年からは、戸出商工会(現、高岡市商工会)の企画により現在の形の七夕まつりが開催されるようになっていきます。

「七夕まつり」を盛り上げ、長くおどろ継がれている『戸出音頭』。毎年「民謡踊り街流し」に尽力いただいている加賀田さんに寄稿頂きました。 青島幸子

☆☆☆☆☆ 踊りで一体に ☆☆☆☆☆

7月6日、街流しの直前にポツポツと降りだした雨も何とかやみ踊ることができました。

年々踊り手が減少する中で何か打開策を見つけないといけないと考え地元の高岡南高校のダンスクラブをお願いした所、部員1,2年生30人全員が参加して頂くことになり、夢じゃないかと耳を疑ったくらいです。

会員で踊られた一人に、ひ孫さんがダンス部で、感想を聞くと、「ひ孫と踊れて夢のようだった」といっておられました。

ダンス部主将の柿本優菜さんは「練習から地元の方々と一緒に楽しんできた。踊り歩いて一体感を感じられ新鮮だった」と話されていました。普段高校生とお話する機会はありますが地元の七夕まつりを通して多くの方とふれあうことができました。30人の着付けは大変でしたが大勢の人達の協力でできたと思います。心から感謝いたします。小さい頃から参加しておられる皆さん、来年はお友達や家族と一緒に戸出七夕まつりを楽しんで盛り上げて頂きたいと思います。 加賀田章子



日本一の安全確認（東部っ子の自転車走法）

7月5日(日)、戸出東部小学校6年生が、「第59回交通安全こども自転車大会富山県大会」に高岡市の代表校として出場しました。

今年は富山県下13小学校54名の児童が出場し、富山県運転教育センターで開催されました。



「東部っ子」の6名の選手は、6月中旬から毎日の昼の長休みと放課後に週約4回、越田校長先生、大木先生、堀高岡交通安全協会事務局長の指導で、確実な安全確認、スラローム走行などの練習をしてきました。



大会当日は、テストコースいっぱいに響く大きな声で前後左右の安全確認を行い、スムーズな自転車操作を披露しました。

閉会式では大会関係者の方から、「この大会で学び経験したことを基に、同級生や下級生に、自転車の正しい安全な乗り方を教えてあげてください。」とのお願いもありました。 高岡交通安全協会 北般若支部

モルック交流会始まる

西部金屋のいきがい活動の一つとして昨年の e スポーツに続き、6月13日『モルック』で三世代交流会を企画し、子供・父兄・シニアの20名が汗をかいた。

モルックは、フィンランド発祥で年齢や運動神経に関わらず誰でも気軽に楽しめるスポーツとして、今年は戸出体育振興会が新たに推奨する取り組みで振興会長はじめ同推進員7名も駆けつけて頂き大盛り上がりでした。

ルールは、交互に木製の棒(モルック)を数字が書かれた12本のピンをめがけて倒し、先に累計点数50点ぴったりにしたチームが勝者として競います。50点を超えれば25点に減点されて続けるスリリングでチームが一喜一憂しながら和気あいあいと楽しめるのが面白い所です。次回は10月25日に大会を予定していますがそれ迄待てず、早速同好会が立ち上がり定期的に練習に励んでいます。 いきがい活動 世話役



西部金屋の由来と史跡めぐり②

◆文化財「梵鐘竜頭木型」を見学

「西部金屋の由来と史跡めぐり」で、交流センターでの座学の後には、梵鐘竜頭木型の実物を見せていただく為に、徒歩で林家へ向かいました。

集落の中でも一際目を引く大きなお屋敷。長い歴史を持つ旧家ならではの風格ある佇まいは、訪れる者を一瞬で昔ながらの情緒あふれる世界へと引き込みます。その宅道の



の入り口、角の場所に静かに佇み、訪れる人々を温かく出迎えてくれるのが一体のお地蔵さまです。このお地蔵さまには、林家の先祖がかつて近くの田んぼの中にあつたものを、この場所へと大切に移設したという優しいエピソードが残されています。いまでもとても大切にされており、ご近所の方も前を通るときには手を合わせていらっしゃるそうです。文化財「梵鐘竜頭木型」は、ガラスケースに入れられて大切に飾られていました。そもそも「竜頭(りゅうず)」ってどこのこと？お寺の巨大な鐘を見上げたとき、一番てっぺんで「鐘を吊り下げているパーツ」があります。実はあ

の部分だそうです。重い鐘を頭で支える超重要保安部品です。今回見学した木型は、まさにその「竜の頭」を鑄造するために作られた、江戸時代の木製の型です。「鑄物の型」なので、2分割構造になっています。この木型を砂に押し付けて、砂の型を作ってから1000度を超えるドロドロに溶けた銅を流し込んでいたそうです。ほかにも鑄物師職許状(鑄物師の免許証)などの古文書も見せていただきました。古文書は、広げるととても長い巻物になっていて自分なりに調べたところ、鑄物師の規則を箇条書きで示した書状も含まれていることが分かりました。代替わりのときには、全国の鑄物師を統括していた真継家からの認可が必要で、家業を継ぐのも簡単ではなかったそうです。

当日は、まだ5月なのに汗ばむほどの夏日でしたが、先輩方から教わる地域の歴史は新鮮で、深くあたたかい交流の時間となりました。身近な場所にも、まだ知らない物語がたくさん眠っています。皆さんもぜひ、地元の歴史を紐解いてみませんか？ 林 武一

